

そ が が わ 曾我川治水緑地事業

受賞機関 奈良県桜井土木事務所
橿原市都市整備部都市施設整備課

はじめに

周囲が山々に囲まれた大和盆地には、大小合わせ一級河川が158本を数える。

それら全ての河川が盆地の中央を流れる大和川に注ぎ、大阪府内を西下し、大阪湾へと流れる。元来治水安全度が低く歴史的に見ても干ばつと洪水を繰り返してきた。

昭和57年8月災害を契機に同60年から国、県、流域25市町村が連携し、大和川総合治水対策として河道改修だけでなく流域対策への取り組みが積極的に行われてきた。

このたび完成した曾我川治水緑地は、こうした流域対策の一環として曾我川流域の治水安全度の向上を図るため計画された。

事業概要

・治水関係（県施工）

整備面積 7.5ha、貯水容量 232,000m³、
越流堤長 75.0m

・公園関係（市施工）

体育館 1棟（ピロティ式）、ちびっこ広場 1,800m²、多目的広場 11,000m²、芝生広場、テニスコート、親水広場等



曾我川治水緑地全景下流側より望む
（中央上：橿原市緑地体育館、中央多目的広場 手前：1級河川曾我川）

事業の特徴

曾我川の中流部は、近年の著しい都市化により雨水流形態が変化し、これに伴い治水安全度が低下し、浸水被害が懸念されてきた。このため河道改修による治水安全度の確保には制限があるとともに莫大な費用と長期間を要することから、早期に効果が発現でき、浸水被害の軽減を図れる遊水池の整備を行うこととした。この遊水池は蛇行している旧川をショートカットすることにより旧川敷及び旧川と新川に囲まれた用地を有効的に活用し、貯水容量232,000m³を確保することができた。これにより治水安全度も1/5から1/10に向上させることができ、遊水池周辺及び下流域に対し浸水被害の軽減を図ることが可能となった。

また、平常時は周辺住民に寄与することを目的に当該施設所在地の橿原市によって都市公園としての利用が計画され、県及び市が連携をしながら、事業を進めた結果、地域住民の生命財産を洪水から守り、また、スポーツ施設を核とした地域コミュニティ形成の空間としての多目的な役割を持った施設整備の実現を見た。

おわりに

大和平野において大規模な遊水池計画は初めてであり、貯留型の治水計画を進めていくうえで今後の指針となった。また、知事が竣工式で「21世紀の信玄堤」と表現された。今後、地域の人々に愛され親しまれ健康増進に一役担うとともに浸水被害の軽減に寄与するものと住民の期待も大きい。

受賞賛助会員 ㈱建設技術研究所大阪支社

